

しらおい再発見

地域学講座

2 本町地区



旧白老駅通付近

しらおいのまちを歩いてみませんか

2017年3月

民族共生象徴空間整備による

白老町活性化推進会議

2 本町地区

内 容 駅逦所ほか郵便局、村役場（明治44（1911）年現在地移転）、
巡査駐在所、小学校などの公共施設及び旅館・料亭・製菓店・
鍛冶屋・映画館などが軒を連ねた旧市街地を歩きます

ルート ①白老コミセン（中央公民館）・総合体育館・町立図書館 ⇒
②白老八幡神社 ⇒
③明治天皇行在所碑 ⇒
④しらおい創造空間「蔵」
⑤真證寺（高浜虚子三代歌碑・別所透ふるさとの歌碑）
法傳寺（森竹竹市歌碑）

① 白老町コミュニティセンター 昭和55（1980）年建設

面積2,433㎡

* 白老町中央公民館 昭和55（1980）年建設 面積1,477㎡

昭和63年 「歴史と文化のまち宣言」

* 白老町総合体育館 昭和45（1970）年建設 面積2,225㎡

昭和51年 「スポーツ都市宣言」

* 白老町柔剣道場 昭和53（1978）年建設 面積686㎡

* 白老町立図書館 平成2（1990）年建設 面積404㎡

平成27年度子どもの読書活動優秀実践図書館

②白老八幡神社 祭神：市杵島姫神（いちきしまひめのみこと：弁財天）

誉田別神（ほんだわけのみこと：八幡大神）

豊受姫神（とようけひめのかみ：稻荷大神）

宮司：鈴木琢磨氏

* 白老八幡神社の前身は今から317年前に建てられた弁財天社『東蝦

夷日誌』元禄 13(1700)年

- ・初見は「シラヲイ川舟、シラヲイ泊、弁天社あり」『蝦夷日誌』
(寛政 10 (1798)年)
- ・場所請負人野口屋又蔵が誉田別神を勧請し八幡社と称する (万延
元(1860)年)
- ・規模「辨天社壹宇往古邇有来候 但三間ニ二間云」『一関藩寺社並
神職僧侶調』(明治元(1868)年)
- ・豊受姫神を合祀し白老・敷生・社台三村の白老郡郷社八幡神社と
なる (明治 8 (1875)年)
- ・旧社殿新築 (大正 4 (1915)年)
- ・マッカーサー指令により郷社廃止(昭和 20 (1945)年)
- ・白老八幡神社と改称 (昭和 27 (1952)年)。現社殿は 5 代目(昭和
47 (1972)年)
- ・社務所(昭和 54 (1979)年)・神楽殿(昭和 54 (1982)年)・大鳥居
(平成 16 (2004)年建立：高さ 16m幅 20m)

* 主な社宝

- ・篇額「辨財社」 文政 11 (1828)年：京都三福山僧侶
- ・絵馬「七福神像」 天保 2 (1831)年：アツタ場所波釋
- ・篇額「四季歌」 弘化 2 (1845)年：場所請負人野口屋又蔵
- ・絵馬「三番叟像」 万延 2 (1861)年：会所高橋俊治、東鵬ほか
- ・絵馬「仙台藩史奉納女性像」 文久 3 (1863)年：医師伊東藤翁、
伊東陽三郎
- ・銘木「誉の松」 明治 14 (1881)年 9 月 3 日、明治天皇巡幸の際、
お手播樹
- ・記念樹「鹽竈桜」(宮城県記念物)
- ・その他「銅鈴」元禄 1(1688)年、仙台伝来「不思議な動く石」

- ・例祭日等 毎年9月最終週の金・土・日曜日

例年、全道から約50チーム 2,500人の参加を得て「YOSAKOIソーラン踊り」を行っている

③ 明治天皇行在所碑（昭和11（1936）年、三好竹勇建立）と駅逡所

* 明治6（1873）年、札幌から室蘭までの札幌本道開通、大沢周次郎が駅逡所を設ける

・ 明治11（1878）年8月、英国女性旅行家イザベラ・バード宿泊。著書『日本奥地紀行』に「私は白老がたいへん好きである。もし私がおっと丈夫だったらきっと内陸部を探検する基地とするであろう」と記している。

- ・ 明治14（1881）年9月3日明治天皇巡幸の際、宿泊

- ・ 同26（1893）年12月焼失

- ・ 駐蹕碑は町内に3基ある。

- ・ 明治25（1892）年、鉄道開通し駅が置かれ人口急増（13年696人、25年1,057人、40年3,131人）

- ・ 大正8（1919）年、二級町村制が施行され、敷生・社台村合併4,906人

- ・ 翌年電灯点る。6,312人

* 三好竹勇：明治35年、金沢生まれ。昭和62年、85歳で没。

- ・ 昭和2年、白老村に移住し漁業に従事。

・ 村議（昭和8～22年）、衆院議員（昭和22～24年）、漁協組合長（昭和24～52年）、北海道水産会会長（昭和41～52年）など歴任。

④ しらおい創造空間「蔵」

- ・大正9(1920)年、建設 面積660㎡
- ・湧水を利用して干場亭次郎が明治末から昭和11(1936)年にかけて酒造りを行った旧酒倉(荒井春吉建築)である。
「鶴正宗」「北門一」「自愛」「白の井」の銘柄で年間3百石(1升瓶3万本相当)を生産。
- ・現在はNPO法人しらおい創造空間「蔵」の活動拠点として使用されている。多目的ホールやギャラリーがあり、様々なイベントが開催されている。スペースの一角では白老牛ハンバーガーも販売。
- ・イザベラ・バードの道説明板
イザベラ・バードは英国の旅行作家。明治11(1878)年にバードが横浜から北海道・平取までの旅行記『日本奥地紀行』の中に、白老に宿泊した際の記述がある。「蔵」の建物南側に白老での記述などを解説した説明板が建っている。

⑤ 明治から戦後にかけての主な産業

- ・乳用牛・軽種馬・沿岸漁業・油粕・川崎船(カレイ・スケソウ・タラ・イカ・カニ・サケ)・水田・白老大根・肉牛・木材・缶詰工場・採氷・貯氷庫・鉱山(鉄・硫黄など)・砂利専用側線(鉄道引き込み線)



白老町コミュニティーセンター（白老町中央公民館）



白老町総合体育館



□

白老町立図書館



白老町立柔剣道場



白老町本町旧市街地



白老八幡神社



誉れの水松



白老八幡神社 鳥居



明治天皇行在所碑（旧三好商店敷地内）



旧三好商店（白老駅通跡）



しらおい創造空間「蔵」



イザベラ・バードの道説明板



真證寺



高濱虚子三代歌碑（真證寺境内）



馬頭観世音碑



法傳寺

編集 民族共生象徴空間整備による白老町活性化推進会議

監修 白老町教育委員会生涯学習課

問合先 仙台藩白老元陣屋資料館 TEL0144-85-2666